



お元気ですか！
志村 たかよし です

第910号 2018年10月21日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

2018年 第3回定例会

おぐり智恵子議員が一般質問



質問するおぐり智恵子議員＝7月25日

保育事故を根絶し、質の高い保育を

区議会第三回定例会が9月20日から10月17日まで行われ、9月25日には、日本共産党中央区議団を代表して、おぐり智恵子議員が一般質問を行いました。

おぐり議員は、安倍政権の悪政や築地市場移転問題、生活保護制度、介護保険制度などとともに、家庭的保育事業者（保育ママ）のもとで起きた赤ちゃんの死亡事故を取り上げました。

今年7月27日、保育ママが保育していた乳児が救急搬送され、のちに死亡が確認されました。

中央区の保育ママのもとで赤ちゃんが亡くなった件数は、2011年、2016年に続き3人目です。区内の保育ママは3カ所ですが、全国的に見ても特異なことです。

乳幼児が圧倒的に多い中央区の認可保育所では、死亡事故は起きていません。

保育所での集団保育に比べ、余りに高い事故率といわざるをえません。

保育ママの制度では、一人が3人の乳児を預かることができるようになっていきます。

おぐり議員は、保育事故を根絶するために、保育ママが保育士などの資格を持つとともに、常時複数で保育することを義務化するなど、区独自に規制を強化するよう求めました。

区長は「複数で保育にあたるよう要請している。現状でも随時、保育補助者を配置している」とし、保育資格の必要性については答えませんでした。

保育ママを利用してしている保護者は、認可保育所を希望したけれども入所できなかったため保育ママに頼んでいるという実態があります。

おぐり議員は「認可保育所を増やして、希望者が全員入れるようにすることが必要」と強調し、子どもを中心とした保育を実践するための「保育の質のガイドライン」を策定することを提案しました。

- 【質問項目】
1. 暴走を続ける安倍政権について
 2. 築地市場移転問題について
 3. 保育事故の根絶と質の高い保育の実施について
 4. 「健康で文化的な生活」を保障する生活保護制度について
 5. 住み慣れた地域で暮らしていくための介護保険について
 6. 首都高日本橋地下化と周辺再開発について
 7. 性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会について

市街地再開発事業の闇 (27)

老朽化家屋を持つ不安につけ込んで…

ひと昔前のバブルの時、「地上げ」屋が横行しました。

札束を積み、脅迫まがいの訪問を行い、住民は震え上がりました。

ご近所から1軒、また1軒と歯が抜けるように家が無くなっていき、防犯上も不安になる中で、泣く泣く「地上げ」屋に土地を売り渡してしまい、しばらくすると新しいマンションが建っていくという光景が区内のあちこちで見られました。

湊2丁目東地区は、「地上げ」によって、まちは虫食いの状況の被害を受けました(写真上)。そこで話が出てきたのが、市街地再開発事業によるまちの更新です。

しかし、タワーマンションに反対する方たちがたたかい(写真下)、戸建て住宅を確保することができました。

今、不動産はミニバブルの活況

を見せ、新しい建物が次々と建設されていますが、以前のような「地上げ」は目立たなくなっているようです。



いまは、再開発されてタワーマンションが建っていますが、それまでは、激しい「地上げ」が行われ、多くの住民が中央区から転出していきました。「地上げ」によって生まれた空き地があちこちにでき、駐車場として使われていました。防犯上も良くない状況になりました。写真は、2009年に撮影した湊2丁目の様子です。

老朽化した家を持つ多くの方が、早く建て替えをしたい、耐震補強をしたいと思っても、「先立つもの」がないために悩んでいます。得体のしれない不動産業者には相談したくないでしょう。そんな時に、区から「まちづくり勉強会」(区主催)の案内が送

られてきます。区ということでは権者は安心して参加します。「勉強会」の次は「まちづくり検討会」(区主催)へと進みます。不安を解消するために「区が主催するのだから参考までに話を聞いてみよう」と参加した方たちを待ち受けていたのは…。(つづく)



「URよ、街を壊すな!」「中央区とURは、住民の疑問と意見に対して説明責任を果たせ!」…住民の思いを表したポスターが家々にはられました。